



あかつき園・ひばり園

あかつき園・ひばり園 公設公営の施設で継続を

就学前の障害児の発達支援施設である、「市立あかつき・ひばり園」の一四年度からの指定管理者制度導入の検討を、市が明らかにし、保護

民間事業者で

センター的役割可能か

者、関係者から公設公営の施設として継続を求める声が強まっています。
寝屋川全体の子どもの発達保障のネットワークの軸として

の役割りを果たしてきたこの施設を、民間事業者に管理運営を委ねることに、強い不安や批判のこえが広がっています。

地域包括支援センターも

公的責任が重要

三月市議会で、市は地域包括支援センターの例をあげ、問題がないとの姿勢を示しました。

地域包括支援センターは、高齢者の総合相談支援、介護予防ケアマネジメントなどの機能を担う組織です。

全国的にも多くが民間事業者が運営しており、国の社会保険審議会介護保険部会でも、「地域包括支援センターは行政からの丸投げになっているのではないか」という委員の指摘に、厚労省も否定できません。

地域包括支援センターの場合も、いま大事なことは行政が介護や医療に対する公的責任を果たすことです。
あかつき園・ひばり園についてもセンター的役割を果たすためには、公設公営で正規の専門職員をきちんと配置して、取り組むことが必要です。

地域包括支援センターは寝屋川市でも民間法人に委託されています。関係者が努力されていますが、少ない人員でなかなか手がまわらない状況があること、本来行政が責任をになうべきことを、肩代わりする困難さがあると聞きます。
介護保険制度が導入されてから、行政の仕事は保険料の徴収、要介護認定事務が中心になり、相談機能の後退が全国的な問題になっていま



発行
日本共産党
寝屋川市議員団
824-1181(内線2399)
FAX 824-7760
Email:jcpncc@cc-net.or.jp
No. 2459

太田 とおる
高柳2-49-2
TEL 826-1664

田中 ひさ子
国松町10-36
TEL 823-1714

中林 かずえ
宝町4-33
TEL 839-2289

中谷 光夫
高宮2-19-5
TEL 823-5947

松尾 信次
下木田町12-6
TEL 821-7427

視界

国立社会
保障・人
口問題研
究所が
「日本の

地域別将来推定人口をまとめました。それによると、わが街寝屋川市の人口は二万八二〇四人(二〇一〇年)から、三〇年後の二〇四〇年には一七万八三六一人に、約六万人、二五%も減少すると推計されています▼六五歳以上は人口の四〇・五%をしめ(一〇年は三三・五%)、大幅に増加します。一方、一四歳までの子どもの人口は八・七%(一〇年は十二・八%)とさらに減少が見込まれています▼一人の女性が子どもを生む人数が二・〇七人であれば、人口は維持できますが、寝屋川市では一・二人程度で、現状では人口減少は避けられません。若い人が結婚し、子どもを生み育てられる条件整備は急務です▼また人口減少時代の街づくりで大事なことは、開発主義からの脱却です。緑や農地を破壊する、新たな大規模開発はやめること。いま住民が住んでいる地域で住民が住みつけられるリフォーム型の街づくりが重要となります。空き地、空き家が増える中、農地や緑地の再生も重要な課題となります。

議会費等研究会

4月22日(月) 午後1時
市役所 議会棟4階 第1・2会議室
定数削減・議員報酬などについて
傍聴にご来場下さい

市政に市民のこえ 届いている11.6%

昨年夏、市が実施した市民意識調査(一八歳以上の市民が対象、回収数二〇五七人)では「寝屋川市政に、市民の声が届いていると思いますか」の問いに対し、「思わない」四三・九%(あまり思わない二七・三%、思わない一七・二%)となつています。

一方、「思う」一一・六%(思う三・一%、少し思う八・五%)にとどまっています。また、「どちらとも言えない」



が四三・九%となつています。

この調査結果は、寝屋川市政に対する市民の厳しい評価を示しています。

「市民の意見を反映する、当たり前の市政」が引き続き重要な課題です。

市が実施した 市民意識調査で

都市農業振興へ 思いきった施策の具体化を



第2京阪道路沿道の農地

三月市議会で日本共産党は、都市農業の振興について質問しました。

昨年八月の農林水産省の「都市農業の振興に関する検討会」の中間的取りまとめ

や、九月の国土交通省の「都市計画に関する諸問題の今後の展望」では、都市農地、都市農業について、「消費地に近い食料生産地や災害の避難地、レクリエーショ

市内の農地二〇年前の六割に減少

ンの場として多様な役割を果たしている」と評価しています。

そして、その存在

と活用のための具体的な施策等の検討をすすめることを提起しています。

新たな開発で

農地削減のうごき

寝屋川市内の農地は二〇年前とくらべ、六割に減少しています。その上、第二京阪道路沿道の新たな開発で、さらに農地が減らされようとしています。

市は、「都市計画マスタープランの中で農地保全を位置づけている」「貸農園の充実等に努める」と答弁しました。

農地保全と農業振興へ、思いきった施策がもとめられます。

日本共産党は行政が市内農地の削減に歯どめをかけ、農地保全と農業振興に責任を果たすこと、農地所有者と市民の共同によって、農地と農業の維持発展をすすめるべきと、主張しました。



議員日誌



田中
ひびき

先日、訪問しました。「ええとこ来はった。ごみ収集車から聞こえる音楽が朝から『夕やけこやけ』は、やけこやけ」は、気がぬけるやないか。何とかならないか」という相談でした。

私も、何で朝から「夕やけこやけの赤とんぼ」の曲なのか、時刻や季節等関係ない童謡

があるのにと、思っていました。

市の担当課に問い合わせますと寝屋川市は〇九年から「赤とんぼ」の曲になり、市によってはごみの種類によって音楽を変えているところもあるそうです。

「こんな曲がよいのでは」など、みなさんのご意見をお寄せください。